

第6期第1回横浜市子ども・子育て会議 放課後部会 会議録	
日 時	令和5年6月16日(金) 18時33分～19時53分
開催場所	横浜市庁舎 18階 みなと6・7会議室
出席者	青柳寛子委員、青山鉄兵副部会長、明石要一部会長、池田浩久委員、江口和良委員、鈴木裕子委員、辺見伸一委員、松本豊委員、三浦尚美委員
欠席者	宮永千恵子委員
開催形態	公開(傍聴者4人)
議 題	<p><報告事項></p> <p>(1) 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について</p> <p>(2) 放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けた調査について</p>
<p><報告事項></p> <p>(1) 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について</p> <p>(事務局) 資料5に基づき説明</p> <p>(鈴木委員) 回答者の負担が少なくなるように年収などの回答に抵抗がある項目は変えることはできませんか。</p> <p>(事務局) 絶対に変えられないというものではないが、先行しているほかの調査の調査結果と比べられるように今回は項目として設定していきたいと考えています。今後のご指摘を踏まえて検討していきます。</p> <p>(事務局) 年収はたしかに答えにくいと思う。年収とニーズは施策を考えていく上でかなり重要なものと思っているので、回答しやすくなるように工夫をしていきます。</p> <p>(辺見委員) お子さんへのアンケートについて、選択肢の中から3つを選んでもらうことになっているが、かなり広範囲になっているのでお子さんが迷ってしまうと思いました。</p> <p>(明石部会長) 同じ質問を考えていました。これは小学校何年生を対象とするのでしょうか。</p> <p>(事務局) 小学校1年生から6年生までを対象としています。</p> <p>(明石部会長) 1、2年生は先生が読んであげるか親が読んであげないと駄目です。今回の場合は4年生以上をお願いしないとデータが信用できないことが1点、辺見委員の言う通り、子どもが14項目もある中から3つを選ぶのは上から3つを選んでしまうので、データが信用できない点が1点あります。それぞれにマル・バツであれば良いと思います。</p> <p>(事務局) 対象範囲や設問の個数、設定の仕方など再度考えていきます。</p>	

(青柳委員) 子ども向けアンケートに漢字が入っているので、送り仮名をいれていただきたいと思いますと思いました。

(松本委員) 同じです。フォントを大きくするとか明らかに子ども向けということがわかるような体裁にしていただけの方がと良いと思いました。

(明石部会長) 子ども向けにするという点、良いと思います。

(鈴木委員) 同感です。

(池田委員) 2つ質問させていただきます。プレイパークについて、行ったことがあるか、ないかという質問になっているが、行ったことはあるが使わなかった、という質問もあると良いと思います。

2点目は、こどもログハウスが各区にあるのに設問がなく、その他に入ってしまうことが気になりました。

(青山委員) アンケートについて、親と子どもで、回答用紙を別々にする、用紙を折り曲げてお互い見えないようにする等の配慮が必要です。子どもの回答も親に見えないようにすることで回答の自由度もあがると思います。

その意味では、わからない子は親が書いてあげてくださいとするよりも、無回答である程度許容しても良いと思いました。

(江口委員) 私も同じく子ども本人への質問について、回答が難しい場合保護者が答えるのはどうかと思いました。最後の設問のどんなことを考えているのかということはまさにそこは一番聞きたいなと思いました。

(鈴木委員) 家族の形態も多様化しているので、迷って書きにくくならないような配慮があるとよいと思います。保護者の方は仕事から疲れて帰ってきてから内容を見ることになるので、日頃こういったアンケートに回答されない方からも実態を書いて提出してもらえそうな工夫が必要だと思います。

(松本委員) 問 25 と問 40 の選択肢が同じならば、親はこういうところに連れて行ったけれども実は子どもは興味や関心がないという相違が比べられる質問だと思うので、その辺も意識されたら良いと思います。

さきほどの質問にもあったように地区センター等の放課後の居場所はあると思いますが、プレイパークを取り上げられた理由について教えてください。

(事務局) プレイパークはこども青少年局の重要な事業の1つということで市民の方のニーズを把握し、改善したいということもあり、項目立てでの質問としています。縦割りになってしましますが、地区センターは他局の所管となっていて、関係局には共有させていただきます。

(明石部会長) ほかに御意見はありますか。なければ鈴木委員の意見を踏まえ、問4から問6について多様化している家族の形態であっても回答しやすいように検討してください。

(事務局) ありがとうございます。検討させていただきます。

(2) 放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けた調査について

(事務局) 資料6から8に基づき説明

(松本委員) キッズクラブとして1人当たりどのくらいのスペースを確保するといった条件はありますか。

子ども向けアンケートの8について、放課後キッズクラブには色々な人・先生がいるので、どの人を指して回答するのか、子どもには難しいと感じました。

小1の壁のところで「保護者の出勤より児童の登校時間が早い場合がある」という選択肢もあった方が良いと思います。

(事務局) 最初の質問ですが、キッズクラブは面積基準を条例で定めています。一人当たり1.65平米の面積を確保しなければならないと条例上されていますが、これは利用区分2のお子さんのみで判断する基準となっております。

実際には利用区分1のお子さんもいるので、利用区分1のお子さんと一緒になったとき、1.65平米が確保できていないという問題もありますが、基準上は利用区分2のお子さんのみで判断することとなっています。

2点目のお子さんへのアンケートについてはいただいたご意見をもとに再度検討していきます。

3点目についてですが、今回の調査を踏まえて今後どういった対応が必要になってくるのか、そういう部分も検討させていただきます。

(池田委員) クラブにいる大人についての設問で、怖いと思っている人に怖いにマルをつけて提出できるかは疑問に感じましたが、怖いという意見はあると思うので、上手く聞けるようにしたいと感じました。

小1の壁について、保育園と小学校の比較があると思いますが、0から2歳児クラスでは連絡帳で、3から5歳児クラスでは先生と口頭でその日の出来事を共有してもらっています。子どもの色々なエピソードが聞くというのはすごく大事な視点だと思いますので、こういったアンケートでも大事な視点を踏まえていただきたいと思います。

(松本委員) 3つ選ぶのではなく、1つずつこういう人はいますか、マル・バツといったアンケートもよいと思いました。

(青柳委員) 怖い=悪い人ではないと思うので、怖いも選択肢にあって良いと思います。

(明石部会長) 各クラブの子どもにお願いするので、とりわけ低学年のデータが欲しいです。良かったらクラブの人に1年生は文章を読んでもらって答えてもらう、といった配慮をやってほしいです。

個人的には市役所 700 名による事前調査のデータが非常に貴重で、よくやってくれたと感じました。特にキッズクラブ・児童クラブにもっと行きたいという設問で、非日常的な体験・活動が4割を超えています。放課後の施策で日常生活の対応は多いけれども、非日常が少ないことの表れかと思えます。特に長期休暇の場合にそういった活動を用意するのは大事だと感じました。

本日はありがとうございました。

資料	<p>[報告事項資料]</p> <p>資料5 第3期子ども・子育て支援事業計画策定にニーズ調査について 資料6 放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けた調査について 資料7 R5 事業概要 資料8 アンケート項目(案)</p> <p>[参考資料]</p> <p>資料1 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 委員名簿 資料2 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 事務局名簿 資料3 横浜市子ども・子育て会議条例 資料4 横浜市子ども・子育て会議運営要綱</p>
特記事項	—